

## 八代市立学校再編等基本方針（案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

1 意見募集の期間 令和8年2月2日（月）～ 令和8年2月27日（金）

2 意見の件数 48件（14人）

3 意見の取扱い

- ・今回いただいたご意見につきましては、基本方針（案）に記載している内容に含まれていましたことから、修正はないため反映欄は空欄となっております。
- なお、いただいたご意見につきましては、今後の基本計画の策定等の参考にさせていただきます。

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
1	4・5ページ	【学校規模の状況について】 P4～P5【表3】【表4】の小・中学校規模別分布と児童数・生徒数において、令和17年度の予測値を示されたグラフは、とても理解しやすかった。大規模校でも激減することがわかり、学校再編が必要であることの根拠となる資料でした。	【表3】【表4】は、八代市住民基本台帳記載の年齢別人口を基に、10年後の各小・中学校の児童生徒数と学級数を予測したものです。 今後は、この予測値を基に、学校と地域の実情等を踏まえ、学校再編等基本計画（仮称）を策定していきます。	
2	6ページ	【学校施設について】 本市の学校施設は「10年後には約6割の施設が築50年以上となり、老朽化が進行する見込み」がどの学校が対象になっているのか具体的に示してありません。次の八代市立学校再編等基本計画には、これからの八代市立学校耐震化計画や市として防災機能の強化をどのように検討しているのか、明確に示してほしい。	これまで、安全・安心な学校施設とするため、施設の老朽化対策や耐震化などの整備を行ってきました。 施設面においては、築年数が比較的浅く、安全性の高い施設を優先的に活用していきたいと考えております。 なお、本方針では、学校ごとの築年数は記載しておりませんが、地区懇談会等の場において、学校施設の状況や防災機能等についてもお知らせできると考えております。 また、学校施設等の築年別整備状況や学校施設等の状況、計画的整備の考え方等については、本市ホームページで公開している「八代市学校施設等整備保全計画」に掲載しております。	
3	6ページ	【学校施設について】 老朽化していない、耐震設備のある校舎は「学校」として優先的に利活用していただきたいです。（今回、施設老朽化を課題の一つとして挙げられているならば。）	・「八代市学校施設等整備保全計画」の一部改定について <a href="https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00311243/index.html">https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00311243/index.html</a>	
4	6ページ	【学校施設について】 「学校施設は～安心して快適に過ごすことができるように…」、安心＝安全であることは最低条件であり、耐震がなされていること、老朽化等で危険がないこと。また雨漏り等でカビなどの健康への影響の心配もないことを望みます。		
5	7ページ	【「八代はひとつ」の記述について】 「八代はひとつ」はムリがある。平野部と1回郡部は分けて考える必要がある。過疎地域は防災やコミュニティの維持の1つとして学校は必要	本市は、東西約50km、南北約30km、面積約681km <sup>2</sup> もの市域を有しており、平野部から山間部まで多様な地域環境があり、それぞれに受け継がれてきた歴史や文化があると認識しております。 7ページに記載しております「八代はひとつ」については、市民の皆様は自分の住む地域の子供たちのことだけではなく、八代市全域の子供たちがより良く学べる環境について自分事としてとらえ、一緒に考えていただきたいという思いを込めて表現しております。	
6	7ページ	【「八代はひとつ」の記述について】 今までの枠組みを越えて再考していく、という意味だとは思いますが、八代市街地の学校と、郡部合併されたような中山間地域の学校では、学校の抱えてる問題が大きく異なっているのでは。人数が少ないからといって、統合できる学校が近距離になかったり、学校が統合で地域からなくなることは、そのまま地域が消滅する原因となるので、望ましい学校規模、学級規模にこだわらず、その点は最大限に考慮して、市を一つに考えるのではなく、きちんと個別に、地域を考慮して欲しい。その点では、町作り計画も関わってくるので、きちんとその点も考えることができる体制で臨んで欲しい。		

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
7	7ページ	<p>【学校再編の方向性について】</p> <p>本案について、本市の人口動態等綿密な状況把握に基づき作成されたものであると捉えている。実施事例をいくつかお示しされていたが、児童生徒数の減少に伴い施設数を減じるのは適切であり、スケールに応じた整理はごく当たり前にあってよいと考える。本市の人口が増加に転じる見込みのないことは十分理解する。反対しない。私自身、学生時代は小中学校通じて一度のクラス替えもない、競争の少ない学生生活であったため、切磋琢磨する機会を損失していた。より規模の大きい、人流のある学校で過ごしてみたかったと考える。費用対効果以外の判断軸があることは十分理解しているが、随時適切な規模へ見直さなければ将来世代への負担になるばかりである。</p>	<p>3ページの【表1】【グラフ1】、4ページの【表3】、5ページの【表4】で示しているように、本市のどの地域においても児童生徒数の減少傾向が進んでいる状況にあります。このため、過小規模校及び小規模校では、それぞれの学校のメリットを生かしながらデメリットを克服できるよう創意工夫を行ってきましたが、学校の取組だけではデメリットを補いきれず、教育活動への影響が出てきています。</p> <p>このような状況を踏まえ、本市教育委員会では、学校・地域の特色とそれぞれの課題等を把握し、「第4期八代市教育振興基本計画」の基本理念と5つの基本目標のもと、本方針で示しております、より良い教育環境づくりと魅力ある学校・地域づくりの実現を目指した取組等を進めてまいります。</p> <p>なお、「第4期八代市教育振興基本計画」については、本市ホームページで公開しております。</p>	
8	7ページ	<p>【学校再編の方向性について】</p> <p>基本理念のもと、ふるさと八代をこよなく愛し夢と希望をもって心豊に生きる児童、生徒の育成、また、より良い教育環境づくりと魅力ある学校、地域づくりを進めるための学校再編と理解はしたが、小規模化している学校では、人数の多い学校より細やかな指導や支援ができ、複式学級では児童、生徒の意識と自主性が際立っていると思う、今の世の中こそ、人との関わりが大事になっている時は無かったとも思う、確かに人数が少ないと出来ない事もあるが、そこに居る人達皆でと云う事は、学年の違いを思いやったりして出来る事だと思う。</p>	<p>・「第4期八代市教育振興基本計画」について  <a href="https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00325791/index.html">https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00325791/index.html</a></p>	
9	7ページ	<p>【学校再編の方向性について】</p> <p>市南部は標準とする学級数に達しない学校が多数存在します。登校時の安全性、児童生徒のコミュニティの充実性、保護者への負担を考え、早急に再編を行うべきと考えます。バス通学を常態化し、南部学校は比較的校舎築年数が浅い学校へ集約する必要があると考えます。廃校となる学校は地域コミセンの改築場所や、民間との協働利活用に充てることで財政ロスのない運用が可能と考えます。</p>		
10	7ページ	<p>【学校再編の方向性について】</p> <p>確かに人口減少している中、学校、学級規模が小さくなっているが、その中でも、学級崩壊が起きたり、不登校児の増加がみられている。学級の規模の適正は、再考の余地があると思われる。決して多ければいいというわけでもないと思う。子どもたちも、よりよい環境で、胸を張って、地域でのびのびと学んで欲しいです。そんな環境を、「規模」というものにこだわらず再編していただけたらと思います。</p>		
11	7ページ	<p>【学校再編の方向性について】</p> <p>少子化による事での単に人数の編成を行うより、児童を教育するにはどのような環境が良いかを(基本に返って)しっかり検討すべきと考えます。管理しやすさより、子供達の健やかな成長や未来を託する大人として成長してもらう為の環境を整えるべきと考えます。教育委員会は、余りにも「管理をする」という点に力点が置かれているように感じます。先生方の待遇も善処されるべきだと思います。</p>		
12	8・9ページ	<p>【学級編制基準について】</p> <p>1クラス35名とあるが、担任の負担、子どもたちが学習に集中できる環境づくりを考えると、1クラスの人数はもっと少なくてもいいと思う(20名~25名)。</p>	<p>学級編制については、9ページに記載しているとおり、国の法令及び熊本県の学級編制基準で決まっており、それに基づき教職員が配置されております。</p> <p>なお、教室の広さの基準も国の法律で定められておりますが、子供たちが快適に過ごすことのできる学習・生活空間となるよう努めてまいります。</p>	
13	8・9ページ	<p>【学級編制基準について】</p> <p>きめ細かな指導、支援ができる学級規模にすれば、学級数は増えるし、増えれば人間関係の固定化は緩められるのでは。集団での活動ができるように小規模では交流していくことで、ある程度は補えるのでは。</p>		
14	8・9ページ	<p>【学級編制基準について】</p> <p>快適に過ごす→快適な空間における授業。現在、机は1列ずつ間をとっているため、クラスの人数が30人以上いる教室では、通路も狭く教室いっぱい机を並べている。そのため、圧迫感もあり、集中して快適に授業がうけにくい環境になっている。標準クラス規模の人数を再考するべきでは。</p>		

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
15	8・9ページ	<p>【望ましい学校規模について】</p> <p>特別支援学級が定員いっぱいの学校もあり、丁寧な関わりが難しい場合もある。その点を踏まえた学級数の在り方を検討する必要があるのではないかと。</p>	<p>現在、どの学校・学級においても児童生徒の状況とニーズに応じた、きめ細かな支援と指導に尽力しているところです。なお、国が示した学校規模（4ページ【表2】）の学級数には、特別支援学級の数は含まれておらず、通常学級の数で分類されています。いただいたご意見については、参考にさせていただきます。</p>	
16	10～13ページ	<p>【魅力ある学校・地域づくりについて】</p> <p>校区地域に学校が無くなるとなれば、校区の崩壊に繋がると懸念する、自営業の多い地域で後継者問題にも、学校が無いからと若い人の流出にも直結するのでは？とも思う。校区地域それぞれの特徴があるので、再編するとなれば問題は大きいと思う。学校は地域コミュニティの拠点として重要であり、学校と地域を繋ぐ地域学校協働活動も学校と地域が、そこならではの活動で行われているのが、再編によって難しくなるのではと思う。いずれは再編を受け入れなければならない時がくるだろうが、その時まで小規模学校を大事にしてほしい。学校には、用務の先生、事務の先生、保健の先生、すべてが必要です。子供たちの環境を考えるならば、その削減は止めていただきたい。</p>	<p>学校は、子供たちの学習・生活の場であるだけでなく、避難所等の機能や社会教育等における様々な役割を持っているため、地域住民の皆様にとっても重要な施設となっております。地域から愛され支えられてきました。</p> <p>地域コミュニティにつきましては、再編をきっかけに、これまで別の校区であった地域の方々が再編した学校に関わることで、地域の方々同志の新しい絆ができ、コミュニティが広がることも期待されます。保護者だけでなく地域の方々も、再編された学校行事に参加できたり、子供たちが地域との交流活動や行事に、旧校区を超えて積極的に参加したりすることで、地域とのつながり（地域コミュニティ）は広がっていくよさもあるのではないかと考えております。</p> <p>今後、すべての学校・地域が魅力ある学校・地域となれるよう、11ページ【表7】と13ページ【表8】にある取組を推進してまいります。</p> <p>また、通学の方法や子供たち及び保護者の負担軽減についても検討します。</p>	
17	10～13ページ	<p>【魅力ある学校・地域づくりについて】</p> <p>魅力、特色ある学校・地域づくりのためにも、地域コーディネーターの発展的活用、国の制度や校区制等に縛られない教育特区や、通学手段のための地域に応じたコミュニティバス（スクールバスではなく）等や2033年に復旧予定の肥薩線の利活用を同時進行で検討していただきたいです。</p>		
18	10～13ページ	<p>【魅力ある学校・地域づくりについて】</p> <p>「魅力ある学校づくり」では、これまで学校は「地域の学校」であり、保護者や地域によっては、小規模校の中で教育することは価値があるという意見もあると思う。ただ、未来の八代市の子供たちには「集団の中から新しい時代につながる学び」を保障し、「魅力ある学校づくり」を目指してほしい。また、学校再編後も、子どもや保護者に負担軽減につながる体制づくり（通学バスやタクシーなど）をお願いしたい。</p>		
19	10～13ページ	<p>【魅力ある学校・地域づくりについて】</p> <p>この学校には、友達と笑いあって面白いことを経験して、学びたいと思う子ども達がいる。この学校には、親子で育ちあいたいと思う保護者がいる。この学校には、のびのびと子ども達に学ばせてあげたいと思う先生がいる。子ども達が子どもらしく元気に学校に来る、先生方が安心して子ども達に向き合うことができる学校運営をしたいと思う校長先生がこの学校にはいる。校長先生の思いをくんで、子ども達、先生方、保護者、地域の方々とのパイプ役を一生懸命頑張る教頭先生がこの学校にはいる。子ども達を地域の宝として協力・見守り・手助け応援してくれる地域住民がこの学校にはいる。こんな学校なら行きたいと思いませんか？行政だけでは作れない、だからみんなで作る。子どもをまん中の地域づくり。それが八代市のやるべき、特色ある学校づくりだと思います。児童生徒数だけで判断して、学校の数を減らすだけの政策にしないで下さい。子どもも大人もイキイキしている学校なら、学校が子ども達にとって大好きな場所にきつとなると思います。</p>		
20	11ページ	<p>【免許外教科指導の解消について】</p> <p>免許外教科指導の解消のためには人材の奪い合いになるのかもしれませんが、まずは市立学校に勤務する現職の待遇向上が必要と考えます。また、国への働きかけが必要かもしれません。</p>	<p>本市の中学校において、免許外教科の指導の必要がある中学校は15校中14校（令和6年度）です。教職員の配置数は、学校規模により「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員標準に関する法律」で定められおり、中学校における免許外教科指導を解消するためには、1学年3学級以上、全体で9学級以上の学校規模を確保することが必要となります。そのため、現在の本市の中学校規模では免許外教科指導の解消は難しい状況にあります。</p>	
21	11ページ	<p>【再編した学校の状況について】</p> <p>学校が直面している教育課題を解決していくため、学校再編を活かした魅力ある学校づくりに向け、【表7】にある取組等について検討していくとあるが、既に再編をした各校において、学力、いじめ及び不登校の状況がどのように変わったのか、情報があれば知りたい。再編することにより、これらの問題が良い方向に向かうのか気になる。</p>	<p>既に再編した学校の学力、いじめ及び不登校の状況の変化につきましては、詳しい数値は出ておりませんが、子供に与える影響や再編の効果を測るためには、再編前後の個別の検証が重要だと考えております。</p>	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
22	12～17ページ	【学校再編に向けた取組体制について】 学校再編は、学校だけの問題だけでなく、地域づくりなど、幅広い業務内容となると思います。庁内連携ではなく、市役所内に担当課を作り、職員の確保・充実を図ってほしい(担当者が3名では少なすぎると思います)。	学校再編に向けた取組体制については、教育委員会だけでなく、市長部局の関係各課や地域の関係機関とも連携・協働しながら、ふるさと八代を誇りに思う子供たちの育成のため取り組んでまいります。 なお、学校再編に係る業務につきましては、教育部の未来の学校づくり推進室で主に担当していますが、引き続き、教育部内のすべての課及び市長部局の関係各課の協力をいただきながら連携して進めてまいります。	
23	12～17ページ	【学校再編に向けた取組体制について】 八代市立学校再編等基本計画では具体的な計画が示されてくると思いますが、P12の「魅力ある地域づくり」では、防災拠点も含めて未来の八代市政がどのようなビジョンをもっているのか、「八代未来づくりビジョン」や「教育振興計画」等、具体的な方針を受けてものでなければ、教育委員会はまとめるのが大変だと思う。市の厳しい財政も含めて関係部局・関係機関の担当者の方の業務も忙しいと思いますが、本気になって教育委員会と連携し、未来の子供たちのために保護者や地域と向き合い丁寧に説得できるか、小野市長をはじめ、オール八代市で進めてほしい。		
24	12～17ページ	【学校再編に向けた取組体制について】 保護者及び地域の合意形成が得られるには、関係部局や関係機関等の担当者の心身の疲労は計り知れないと思う。教育委員会(未来の学校づくり推進室)の一部の職員に負担がかからないようにしてほしい。		
25	12・13ページ	【コミュニティスクールと学校施設の複合化について】 コミュニティスクール化と複合施設化を積極的に検討を進めてほしい。児童の数の減少は成人の数の減少でもあるから、多様な年齢層・社会経験を有する成人と触れる機会の確保にもなると考えます。	現在、すべての市立学校においてコミュニティスクールを導入し、学校運営協議会の中で学校の運営とそのために必要な支援等について協議しながら、教育活動の充実に取り組んでいるところです。 なお、複合施設(学校施設の複合化)については、今後、施設の状況や地域のニーズを把握し、時代の変化に対応できる学校施設の計画的な整備に努めてまいります。 また、学校内にある余裕教室については、状況をみながら関係部局とも連携し、学童保育への活用や子供の居場所づくりの確保などを検討してまいります。	
26	12・13ページ	【学校施設の複合化について】 学校施設内学童の利活用を検討していただきたいです。(空き教室利活用、地域住民・民生委等の運営による。)		
27	14ページ	【学校再編の進め方について】 現状を考えると、再編は致し方なく既定路線だと思うが、昨日日奈久小学校の創立150年を取り仕切らせていただいた者としては、自分と子供達のお世話になった母校が廃校になるのであれば、大変寂し思うところである。式典に際して多くの卒業生から頂いた寄付とメッセージ、励ましと労いの言葉。これらを受け取った者として、再編ありきだとしても母校を残す良い方法はないものか、そう思うのが偽らざる気持ちです。何とかありませんか？	地域にある学校は、これまで長い歴史の中で皆様方から愛され支えられてきました。学校再編を進めるにあたり、学校関係者だけでなく多くの皆様方からのご意見をいただきながら、子供たちを真ん中に据えて協議していくことが重要であると考えております。	
28	14・15ページ	【通学区域の変更について】 学校を統合することが前提のような書き方に違和感がある。規模の大きい校区は、校区を変更して、周辺の学校に生徒数をわける方向で検討してほしい。また、自由校区についても検討の余地あり。	学校再編の進め方を14・15ページに示したところですが、ご意見にありますような統合ありきでは決してありません。 今後、学校選択制の導入、通学区域及び特別地区の見直しなどの制度の活用や、既存の枠組みにとられない取組についても検討してまいります。	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
29	14・15ページ	<p>【坂本地域の教育環境について】</p> <p>八代市坂本町の素晴らしい教育環境で息子を育てたいと思い、大阪から移住しました。大阪人は基本的に、大阪以外には魂を売れません。けれど、都会の人がどれだけお金を出して手に入れることができない、素晴らしい教育環境がここ、八代市坂本町にあります。豊かな自然、長い年月をかけて育まれた日本ならではの、いや、坂本ならではの文化・営み。日々、四季折々の風景、食を見て聞いて食べて、全身で日本を堪能しながら、豪雨災害から蘇る復興の様子を目の当たりにできるのはこしかありません。息子は現在2歳。全国から視察に訪れる里山保育の名門、あさひ森の保育園を卒業した後、八竜小学校、坂本中学校に進学させます。そのために、大阪から坂本に来たのです。前置きが長くなりましたが、どうか、どうか、坂本の小中学校をなくさないで下さい。心からのお願いです。</p>	<p>八代の各地域には、豊かな自然と文化がたくさん残っており、子供たちが地域の方々から支えられながら生活できる環境があります。このような環境の中で、坂本地域を含めずべての小・中学校で特色ある教育活動を展開しているところです。</p> <p>今後の小・中学校の在り方につきましては、学校と地域の実情等を踏まえ、広く意見をいただきながら検討してまいります。</p>	
30	14・15ページ	<p>【坂本地域の教育環境について】</p> <p>八竜小学校は、児童数は少人数ながら、子供達が楽しく通学している小学校ではないでしょうか。いじめ、不登校、学級崩壊等他の小学校では八竜小学校以上に色々な問題を抱えている学校があると聞いています。八竜小学校は、学力も他の小学校より優れていると聞いています。何故でしょうか！</p>		
31	15ページ	<p>【学校選択制について】</p> <p>学区外通学の特例を認める学校を試験的に導入する案はいかがでしょうか。学校独自のアピールポイントがあり、学区外からでも通いたいというニーズがあるかもしれません。</p>	<p>「学校選択制」については、自由選択制、ブロック選択制、隣接区域選択制、特定地域選択制、特認校制の5つの制度があります。</p> <p>ご意見にあります「小規模特認校」は、学校選択制における特認校制のひとつであり、すでに県内でも8つの自治体で実施されていると承知しております。</p> <p>学校選択制の導入につきましては、他自治体での成果や課題等を調査・研究し、学校と地域の実情等を踏まえ、子供たちを真ん中に据えて検討してまいります。</p>	
32	15ページ	<p>【学校選択制について】</p> <p>人数が多い学校からの学校選択制で小規模学校へなどは、実現すれば良い事だとも思った。少子化が止まらない中での学校再編、八代はひとつであるなら、皆で考えていかななくてはならない問題だが、小規模化している学校こそ地域を含めて学校と地域の繋がりがや特色をもって、地域の宝である子供達ファーストで考える問題だと強く思った。</p>		
33	15ページ	<p>【学校選択制について】</p> <p>この方針(案)を見ますと、八代市教育委員会は人数の少ない小・中学校を存続させる方法として、学校の統廃合を重点的に考えておられるように取れます。しかし、県内を見渡すと、「小規模特認校」というあり方も考えられます。2024年9月2日付熊本日日新聞に、「小さな学びや 児童生き生き」という見出しの記事で、県内で小規模特認校制度を実施している自治体の取り組みや成果が取り上げられています。記事によると、熊本市では2025年度までに7校、熊本市に先駆けて実施(2009年～2021年)した自治体は、実施時期の古い順に御船町、西原村、益城町、宇土市、水俣市、大津町、山鹿市と実に7市町村に及んでいます。これらの市町村では、制度の成果として、過疎地域の学校の存続や複式学級の解消の他、少人数の利点を活かす(低学年から役割を持たせるなど)ことで児童に積極性が生まれ、不登校の減少につながった、などとされています。そこで、これら県内自治体の実践を参考に、八代市でも、例えば、坂本町の八竜小学校・坂本中学校のように、災害などの影響で人口減少しているものの、地元住民の方々が学校の存続を希望しておられる場合、この「小規模特認校」制度をぜひ検討していただきたいと考えます。</p>		
34	15ページ	<p>【学校選択制について】</p> <p>中学校でも小規模特認校のように校区外から通学できる仕組みを検討していただきたいです。</p>		
35	15ページ	<p>【学校選択制について】</p> <p>学校に行きづらいという児童が増えている。地元の学校だけでなく、他の校区の学校を選択できるように、柔軟に学校選択ができるような仕組みを作ってほしい。八竜小学校について。令和2年7月豪雨の影響で児童数が激減しました。坂本町の復興のためには、学校の存続は必要です。小規模特認校等、校区外から通学できるシステムの導入をおねがいします。また、被災した世帯の児童は、八代市内から通学できるようにスクールバスを運営されていますが、被災した世帯だけでなく、通学を希望する児童がスクールバスを利用できるようにしていただけたらと思います(2033年には肥薩線が復旧するので、それまでの時限的な運用も可能ではないかと思います)。</p>		

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
36	16ページ	【通学について】 「望ましい通学距離は通学方法で異なるため数値は設定しない」とあるが、スクールバスですべての登下校をサポート出来るのか？ 保護者の送迎負担が増えるのではないかと心配である。	通学については、安全を第一に考え、児童生徒の負担を考慮しながら決定していくこととなります。通学の方法としては、徒歩、自転車、スクールバス、公共交通機関、乗合バス、乗合タクシーなどが考えられます。 なお、スクールバスの運行に関する細かな取り決め等については学校、保護者、運行事業者と協議のうえ決定していくこととなります。	
37	16ページ	【通学について】 学校を統廃合すれば遠距離通学者が増加することが予想されます。その点において、自転車通学、路線バス等の公共交通機関の利用など柔軟に取り入れる。路線バスのバス停を新設したり利用しやすい時刻など含め考えていってほしい。		
38	16ページ	【合意形成について】 地域の実情に応じた合意形成をとっていくと記載があったが、実生活への影響が少ない高齢世代の意見はあまり聞いてほしくない。現役世代、将来世代の意見を重用してほしい。地域コミュニティ拠点としての役割も理解はするが、学校再編とは分離しなければいけない。順序を間違えてはいけない。高齢世代の感傷（干渉）が実害になっている。配慮ばかり求められていないか。仮定の話であるが、市議による議会質問や政治団体から反対意見がなされた際には、毅然とした態度で事実に基づき再編の必要性を訴えてほしい。	令和8年度の早い段階で、小・中学校の児童生徒及び教職員、保育園・幼稚園、小・中学校の保護者などを対象としたアンケート調査等を行い、その後に地区懇談会などを行った上で、学校再編等基本計画（仮称）を策定していく予定です。 また、いただきましたご意見につきましては公正・公平に取扱い、より良い教育環境づくり、魅力ある学校・地域づくりを実現できるよう、子供たちを真ん中に据えた基本計画を策定してまいります。	
39	16・17ページ	【地区懇談会等について】 地域懇談会開催の際は、関係部局も出席するようにしてほしい。学校再編・統合する際、交通手段の確保の問題が必ず出てくる。公共交通を担当する課は、必ず同席してほしい。（スクールバスだけではなく、児童が通学で利用できるコミュニティバスの運営を検討してほしい）	広く意見を聴くためのパブリックコメントであり地区懇談会ですので、それぞれの意見に優劣をつけたりすることはありません。いただいた意見はしっかり受け止め、基本方針及び基本計画の策定に生かしてまいります。 なお、地区懇談会では、教育委員会所管以外のご意見もいただく場合があるかと思っておりますので、必要に応じて関係部局と連携しながら対応してまいります。 また、提供いただいた複式学級に関する情報については、本市教育委員会では持ち合わせていないため、参考にさせていただきます。	
40	16・17ページ	【地区懇談会等について】 パブコメよりも地域懇談会を重視して欲しい。表現が目的より目標になっている。本来なら目的を住民と話し合うのが先。		
41	16・17ページ	【地区懇談会等について】 複式学級でイヤだったという児童や保護者は少ない。複式がデメリットというのは大規模校の思い込み。きちんと現場の声をきいてほしい(国ではなく)。100人以下の方が生徒の満足度は高いという情報もある。中学校の集団教育は違和感がある。多様性の時代に逆行している。		
42		【全体:人口増への取組について】 子育て世帯の八代市への流入を促す施策と連動していただきたいです。(特色ある地域と学校を選び移住される世帯、税収アップ等を期待して。)(空き家対策、空き家改修費補助とのタイアップも。)	本方針及び八代市立学校再編等基本計画（仮称）は、「八代未来づくりビジョン」「八代未来づくり総合戦略」及び「八代市教育振興基本計画」を踏まえて策定することとなります。学校再編は重要な施策であり、八代未来づくりビジョンにおける「生きる力を育む学校教育の充実と学びを支える環境整備」、総合戦略における「教育基盤の整備」の中で位置付けられています。また、教育振興基本計画における「学びを支える環境づくり」の中で位置付けられています。 なお、本市の移住定住の促進に向けた取組として、安心して子育てするための助成制度の充実や、子育てをサポートする体制の充実を図るなど、子育てにやさしいまちづくりを進めております。 また、本市に移住された方の住宅取得や賃借に伴う費用の助成や、空き家バンクの活用促進策として、空き家の改修や引っ越し費用の助成なども行っております。 この他にも、起業支援や就農支援など様々なサポートを行い移住者の増加を図っておりますが、子育て世代にとっては、特色ある学校の存在も移住先を選ぶ上での判断材料の一つになると考えます。 本市教育委員会としましては、各施策の担当課等と連携を図りながら、子供たちがふるさと八代を誇りに思い、子供たちが通う学校が魅力ある学校、特色ある学校となるよう、保護者・地域の皆様方からのご支援とご協力をいただきながら取り組んでまいります。	
43		【全体:人口増への取組について】 「八代未来づくりビジョン」が明確に示され、健全な市政の運営を行っていただきたい。また、積極的な企業誘致や子育て支援等、人口や税収の増加につながる取組を推進していく中で、市全体が活気づき、未来の子供たちや先生方のための、魅力ある「八代市立小中学校再編等基本計画」を期待します。	・「第4期八代市教育振興基本計画」について <a href="https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00325791/index.html">https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00325791/index.html</a>	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
44		【全体:ICTの活用について】 教員不足に対して、不登校生徒等に対して、ICT授業やタブレットの利活用を今以上に検討していただきたいです。	教員不足への対応については、働き方改革や子供たちと向き合う時間の確保のためのICTを活用した校務のDX化等にさらに取り組んでまいります。 また、不登校の児童生徒への対応については、タブレット等のICT活用による学習やメタバース空間での支援体制などを充実させてまいります。	
45		【全体:小規模校の学校運営について】 学校規模に関わらず学校運営が同じに設定されているため、小規模校では先生方の負担が多い状況です。頻繁に担任の先生が出張でいないのはいかかなものかと思っています。学校運営の方も合わせて考えてください。	学校の小規模化は、児童生徒の学習だけでなく、教職員の働き方にも影響を及ぼしていることを認識しております。このため、小規模校の学校運営の改善に向け、より良い教育環境づくりの取組を進めてまいります。	
46		【全体:未就学児の保護者への聴き取りについて】 未就学児の保護者への聴き取りがない。審議会には、未就学児の保護者や民生委員や自治会長など平野部と周辺部をバランスよく入れるべき。	令和8年度の早い段階で、小・中学校の児童生徒及び教職員、保育園・幼稚園、小・中学校の保護者などを対象とした学校再編に関するアンケート調査等を行う予定です。 なお、審議会の委員については、PTA連絡協議会、まちづくり協議会、市政協力員協議会、校長会を代表する者、学識経験者や地域コーディネーターなど12名で構成されております。 また、審議会に対して、教育委員会から「より良い教育環境づくりを実現するための基本的な考え方」と「魅力ある学校・地域づくりを実現するための基本的な考え方」について諮問し、令和7年4月に「八代市立学校のより良い教育環境づくりについて」答申をいただいたところです。答申については、本市ホームページにて公開しております。  ・「八代市立学校のより良い教育環境づくりについて」(答申) <a href="https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00323965/index.html">https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00323965/index.html</a>	
47		【全体:学校運営に係るコストについて】 学校の運営に(適正規模の学校、小規模校、過小規模校)、どのくらいのコストがかかるのか市民に提示してほしい。(老朽化した学校の建て替えや学校運営に関して考えるためには、コスト面を考えることも重要になる)	学校運営に係るコストについては、学校規模や児童生徒数、築年数など様々な条件のもとに予算支出しており、年度ごとでその金額が増減することや各学校にかかる経費が異なることなどから、学校規模別の費用を一律にお示しすることは難しい状況にあります。 今後、地区懇談会などにおいて、各学校における光熱水費や維持管理費などの通常経費などについて、可能な範囲でお示しできるかと思っております。 また、各学校ごとの整理ではありませんが、小学校・中学校・幼稚園・特別支援学校の施設ごとの運営状況(年間コスト、施設整備費、光熱水費・委託費等)や今後の維持・更新コストについては、本市ホームページで公開しております「八代市学校施設等整備保全計画」に掲載しておりますので、ご確認いただくことが可能です。  ・「八代市学校施設等整備保全計画」の一部改定について <a href="https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00311243/index.html">https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00311243/index.html</a>	
48		【全体:学校再編のスケジュールについて】 基本方針(案)では、いつごろ学校を再編する予定なのか、タイムスケジュールがわからない。場合によっては、ライフスタイル・住居を変えなければならない家族も出てくる。他の市町村をみると、基本方針から10~15年かかり、学校の統廃合が実現したという例もある。先の見通しを立てられるようにタイムスケジュールを明示して欲しい。	学校再編のスケジュールについては、今後策定する「八代市立学校再編等基本計画(仮称)」において示す予定ですが、地域の実情によってもその進捗は違ってくることを考えられるため、現時点で具体的にお示しすることは難しい状況です。	